

今後の ICT施策 の方向性に関して (私案)

東京大学 情報理工学系研究科 教授

ISOC 理事

江崎 浩 (Hiroshi ESAKI)

問題意識

1. ICT人材の処遇と育成
2. 標準化戦略
3. 環境・エネルギー対策
4. グローバルコーディネーション
5. 放送・通信融合
6. コンテンツ流通
7. 情報管理(個人情報保護、青少年ネット規制)
8. 無線接続ノードの増加への対応
9. 光ファイバーアクセス網の寡占化
10. (商用システム)情報の共有と解析

基本戦略

1. 『ステークホルダ』

- 省庁連携の強化、ルール策定への参加者拡充

2. 『グローバル化』の推進

- アジア戦略、中東・アフリカ戦略、欧米戦略

3. 『競争政策』から『機会創出政策』へ

- 市場参入、新規事業の展開支援
= Opportunity と Alternatives の提供と確保

4. 政府：『直接介入』から『間接支援』へ

- 健全な民主導を支援・指導する官

5. 世界の『R&D Center』

- Best Practice, Showcase としての研究所的存在

1. ICT人材の処遇と育成

- ステークホルダ：
 - － 学生、教員、社会人、雇用者
- 具体策
 - － 社会人の再教育
 - － 高度・先端技術の習得システム
 - － グローバルな開発システムへの対応スキル
 - － 学校教育 改善・改革(産学連携強化、若手人材)
 - － 民間資格の支援
 - － アジア・中東・アフリカ 人材の受け入れと教育

2. 標準化戦略

- 標準化関連組織の再確認
 - ステークホルダを十分に含んでいるか?
 - 海外プレイヤーへの対応
- 日本発 国際標準 戦略の再考
 - R&D Center から 事業部への移管 と類似?
- トップランナー方式へ
 - 護送船団的 標準化策定 を行わないように
- 民間標準化(DeFacto)の支援
- アジア、中東、アフリカの国内標準化機関支援

3. 環境・エネルギー対策

- 効率化、高機能化の追及による、『結果としての』環境・エネルギー対策へ
- ICTを用いた環境・エネルギー対策の推進
→ {対策基盤を用いた}新産業の創出
- グローバル展開戦略と支援
- 関連セグメントのオープン化施策
- 国内での先導的取組の推進

4. グローバル コーディネーション

- 3つのセグメントへの戦略
 - アジア
 - 中東、アフリカ
 - 欧米
- 人材育成
- 人材招聘、人材派遣

5. 放送・通信融合

- 伝送インフラ・ユーザ機器の共用
 - 伝送インフラ: 共通化の必要はないが、利用可能に。
 - ユーザ機器: 相互接続性の確保(e.g., IPTVと携帯電話)
 - UDL(Uni-Directional Link) の利用促進。
- 新ビジネス、市場参入のための障壁の低下
 - WiMAXにおけるポリシーを参考にできないか?
 - アクセス権、送信権 の確保

6. コンテンツ流通

- (著作権付き)コンテンツの効率的で安価な流通のための制度・規制の見直し
 - 複製権の扱い
 - パブリックコモンズなどへの対応
- (一般)情報の n 次($n > 1$)利用の促進
 - 共通利用に向けた技術検討と制度検討

7. 情報管理

- 個人情報保護
 - － 行き過ぎた自己規制の改善
 - － 原点回帰の必要性

- 青少年ネット規制
 - － 基本原理の確認
 - － 国際貢献

8. 無線接続ノードの増加への対応

- 電波使用料の再見直しの必要性?
- 電波利用ライセンスの考え方。
 - WiMAXにおけるポリシー
 - 端末とサービスのアンバンドル化の促進
- 標準化やライセンスの議論において、必要なステークホルダが十分に集まっているか?

9. 光ファイバーアクセス網の寡占化

- 新規参入、新規事業の展開支援のための構造検討
(関連事項)
IPv4アドレス枯渇への対応とIPv6の展開
- 集合住宅における障害の改善・解決
- 標準化や事業ライセンスの議論において、必要なステークホルダが十分に集まっているか？

10. (商用システム)情報の共有と解析

- 「ガイドライン」の作成
- いろいろな分野における適用可能性の検討
 - インターネットサービスプロバイダ
 - 企業ネット
 - 情報セキュリティー
- グローバル展開の推進